

第11回熊野川懇談会を開催

～新宮川水系の今後の河川整備計画について意見交換しました～

－紀南河川国道事務所－

新宮川水系の国管理区間を対象とした「熊野川河川整備計画（直轄管理区間）」の原案について、学識経験者等からご意見を伺うことなどを目的に、熊野川懇談会を令和2年7月に再開しました。

今回の懇談会では、第9回熊野川懇談会（平成21年3月開催）までに行われた議論内容の概要説明と、令和2年9月～10月にかけて実施しました熊野川現場視察会の結果について意見交換を行いました。

■第11回 熊野川懇談会 概要



- 日 時：令和 2年 12月 1日(火)
15:00～16:30
- 会 場：新宮市役所 庁舎別館 大会議
- 出席者：委員15名中 14名出席
(来場7名、オンライン7名)
傍聴者7名
- 議 事
 - 1) 第10回熊野川懇談会での主な意見と対応
 - 2) 過去の熊野川懇談会概要について
 - 3) 熊野川懇談会現地視察会のまとめ
 - 4) その他

■懇談会内容

河川管理者から、過去の熊野川懇談会で議論を行った治水・利水・自然環境・社会環境における当時の説明や現状と課題、熊野川懇談会現地視察会のまとめについて報告を行いました。報告について、委員より、現在の状況を踏まえた今後の河川整備に関するご意見をいただきました。

■委員からの主なご意見

(井伊委員より)

熊野川の流量は極端に変化することがあるので、変化を踏まえた河川整備を行っていくべき。

流下能力向上に向けて河床掘削を行っているが、ダムの堆砂対策や河道掘削は10年間でどの程度進んだのか。

(森委員より)

津波については、市田川水門の改修による効果検討を行って、もっとPRしてはどうか。

「明日の熊野川整備のあり方」については2009年から2020年へのバージョンアップが必要だと思う。

(岸上委員より)

10年間で地域振興のあり方が変わってきたのではないかと。人口減少に伴い地方創生が推し進められているので、その動きをとらえることが必要である。

また、新型コロナ後の観光業をどのように考えていくのかについて議論が必要である。

(瀧野委員より)

河道掘削により塩水が遡上しやすくなっており、海水魚の増加や市田川浄化用水へ影響がでてきている。



【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局
紀南河川国道事務所 調査課
熊野川懇談会HP:https://www.kkr.mlit.go.jp/kinan/river/kumano_kondan/

〒646-0003

和歌山県田辺市中央万呂142
TEL 0739-22-4813